

☆外務省☆

★基礎データ（TAC・W セミナー調べ）

採用者数	採用年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度
	採用人数	34	33	32	26	26
	女性人数	16	16	18	14	10

* 過年度分は大卒程度・法文系の人数です。

2023 年度採用者の内定時点の内訳

区分別	大卒程度					院卒
	法律	経済	政治国際	教養	その他	
	0	0	14	16	0	4

学歴別	大学院		
	既卒	在学中	
	0	5	
	法科大学院	公共政策大学院	その他
	0	2	3

大学			
既卒	在学中		
0	29		
法学部	経済学部	その他学部（文系）	その他学部（理系）
16	0	12	1

大学別	東京大学	22(4)	東京外国語大学	1
()内は大学院	早稲田大学	3	一橋大学	1
	京都大学	2	慶應義塾大学	4(1)
	立命館大学	1		

訪問者数	1 日目	2 日目	3 日目
第 1 クール	不明	不明	不明
第 2 クール	約 75	約 20	不明
第 3 クール	約 50		
第 4 クール	34		
第 5 クール	34		
(第 1 クールからの内訳)	31	3	0

※内々定者の第 1 クールからの内訳

★官庁訪問復元

内 定

【A さん】

試験区分：政治・国際区分

受験状況：初受験

最終合格年：2022 年度

席次：1～99

事前の説明会参加回数：約 20 回

訪問した省庁

	1 日目	2 日目	3 日目
第 1 クール	外務省	防衛省	財務省
第 2 クール	外務省	防衛省	×
第 3 クール	外務省	×	—
第 4 クール	外務省	—	—

1. 志望動機

この度私は、外交を通じて日本の国益増進に貢献したく外務省を志望する。私は学生時代、国際法を専攻し、〇〇大学法学部へ留学した。留学先で、唯一の日本人学生として、日本の国際捕鯨委員会脱退等、日本の立場を国際法を用いて説明する中で、単に日本の行動を国際法上合法と説明するだけでは、国際社会の理解を得ることは難しいことを痛感した。その後、外務省でのインターンを通して、関連条約の解釈・適用に加え、多数の国々との交渉・説得を通じて、国際法を形成すると共に、日本の立場について信頼と共感を得、国益を維持・増進させる外務省の一端に触れ、外交の間口の広さを感じた。現在、国際秩序は中露による一方的な現状変更の試み等で危機にある。私は総合職として幅広い業務に従事する中で、多様な手段を用いて、国際法を活用・発展させると共に、日本の立場につき国際社会の理解を得る業務に携わりたい。また、それにより国益の維持・増進に貢献できると考える。

2. 官庁訪問スケジュール

第 1 クール 1 日目訪問

- ・ 6 月 22 日 (水) 9 : 00 ~ 22 : 00
- ・ 訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1 回目	人事課	不明	入口面接	10 分
2 回目	国際法課	課長補佐	原課面接	45 分
3 回目	経済局漁業室	主査	原課面接	40 分
4 回目	人事課	企画官	人事課面接	20 分
5 回目	人事課	不明	出口面接	10 分

※オンラインで実施

○入口面談：午前 9 時頃にオンラインでの実施に係る連絡事項と、原課面接のご担当者の課室・お名前を教えてくださいました。

- 人事面接：午前 10 時頃に、人事面接に向けた接続等に関する案内・動作確認があり、その後 10 分程度経ってから、人事面接が始まりました。一対一で、20 分間程度、政策に対する考えや自分自身の人となりについての質問が 10 問程度ありました。はじめの 8 問は、想定問答として準備していた通りだったのですが、最後の 2 問は、想定外のなかなか考えさせられる質問で、自分自身の経験や学んだ内容から必死に答えました。この 2 問に関しては、苦し紛れに答えているのが通じたのか、一度答えると、さらにその答えを深堀して聞かれ、再度答えるというのが繰り返されました。
- 原課面接：午後 2 時頃に、1 度目の原課面接がありました。事前に Teams のリンクが送られ、接続すると面接が開始する仕組みでした。外務省を志望する原点となった、国際法の可能性と限界について、様々な分野や角度からお話いただき、自分自身の考えに新たな視点が加わる等、非常に濃い時間でした。午後 4 時頃に、2 度目の原課面接がありました。手順は先程の原課面接と同様です。捕鯨問題に関する外務省の立場や、その発信の難しさをうかがうと共に、研修・在外公館勤務から帰国して間もない方だったので、研修地や在外公館でのご経験もうかがいました。
- 出口面談：午後 10 時頃に、出口面談がありました。評価と、後日詳細なフィードバックが必要ならば、ということで、人事課課長補佐（採用担当）の連絡先を伝えられました。

第 2 クール 1 日目訪問

・6 月 27 日(月)8:30～23:00

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1 回目	人事課	不明	入口面接	15 分
2 回目	国連政策課兼国連制裁室	首席事務官	原課面接	60 分
3 回目	人権人道課	課長	原課面接	60 分
4 回目	人事課	不明	人事面接	20 分
5 回目	人事課	課長・企画官	人事面接	5 分
6 回目	人事課	課長補佐	出口面接	5 分

※実際に省庁へ訪問

- 入口面談：①他は回らないか、②今後の日中関係をどう考えるか、③業務説明含め引き続き幅広くいつも通り振舞うようにとの旨いただきました。個人的には、②は予想外でしたが、私自身の原課面接や人事面接がすべて午後であり、午前はまだひたすら待つだけの予定だったため、リラックスさせるためにくださったテーマだったようです。実際、お話をうかがったり質問したりする中で、本当に勉強になり、原課面接が 1 個増えたような、お得な気分になりました。
- 原課面接：1 度目の原課面接は、国連の政策全般について伺うとともに、アラビア語研修の方でもあり、アラブの春以降の中東情勢の見方や、中東諸国から見るウクライナ侵攻や国連改革等、普段の机上の学習では知ることができない貴重な学びを得て、大変印象深かったです。2 度目の原課面接は、人権外交全般について伺いました。個人的に、人権外交は、国益と国際益の相違点が如実に表れる難しい政策の一つであり、人事面接等の質問で聞かれた際にどのように受け答えするか悩ましいと考えていた政策でした。お話を伺いながら、日本外務省の立場や、欧州とアジアとの価値観等、大変参考になり、貴重な機会となりました。
- 人事面接：1 度目の人事面接は、第一クールの人事面接と質問の内容等、同様のスタイルだったので、第一クールの個人的な反省点も踏まえながら、受け答えしました。1 度目の人事面接が 18 時頃？に終

わり控室に戻ると、そこから2度目の人事面接まで約4時間待ちました。控室に残る人数がどんどん減っていき最後の5人になったときに、ようやく呼ばれ、2度目の人事面接が始まりました。夜も遅かったからか、内容は、①今日1日の感想、②感想を踏まえた質問1つ、③評価でした。

○出口面談：2度目の人事面接が終わり控室に戻ると、その後終電の時間等調整があり、すぐに出口面談が始まりました。そこで、改めて、評価と、後日詳細なフィードバックが必要ならば、ということで、人事課課長補佐（採用担当）の連絡先を伝えられました。

第3クール 1日目訪問

・6月30日(木)9:00～20:00

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	南東アジア課第1課	課長補佐	入口面接	60分
2回目	集団討論			
3回目	人事課	課長補佐	出口面接（1）	10分
4回目	人事課	課長補佐	出口面接（2）	10分

※実際に省庁へ訪問

○原課面接：入口面談はなく、10時頃に原課面接がありました。ミャンマー情勢を含むメコン諸国と日本の関係、対中政策との兼ね合いをうかがうと共に、フランス語研修やアフリカでの勤務等を伺いました。とっても明るい方で、お話が大変楽しかったため、その後の集団討論への緊張感が幾分か和らぎました。また、ここで得られた国際情勢の見方等が、後の集団討論で生きました。

○集団討論：6人が、二つの立場に半分に分かれて議論する形態でした（人数に関しては若干の違いがあるかと思います）。待合室から別室へ移動し、テーマとそれに対する二つの立場の割り当てと共に参考資料が配布され、制限時間内に準備するよう指示された後、再度違う部屋へ移動し制限時間内で集団討論をしました。なお最後に1人1分でまとめとしての意見を述べる機会がありました。

○出口面談：控室で待っていると、面接・面談等の種類を言われることなしに個別に呼び出しがありました。控室で待っている人の中には、呼び出しがあつて戻ってくる人と、戻ってこない人、呼び出しがそもそもない人がいました。呼び出しの後、別室に移動すると、人事課の課長補佐（採用担当）がいらして、そこで、一通りの評価を言われました。この際の評価で、第4クール、第5クールに進める見通しが立ちました。その後、控室に戻り、数時間待っていると、先の課長補佐がお越しになり、集団での出口面談が行われました。

第4クール 1日目訪問

・7月4日(月)8:30～18:00

・訪問部署

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	人事課	課長補佐	個別面談	5分
2回目	人事課		研修言語オリエンテーション	

※実際に省庁へ訪問

はじめ、人事課長補佐による個別面談がありました。第3クールから、土日を挟んで、何を考えたか、外交政策や言語につき何かしら特定の関心事項はあるかといった事務的な話から、趣味等の話まで、終始なごやかな会話の時間でした。昼食時間となり、5、6人のグループに分かれた上で、入省7年目くらいの職員の方々と、外のレストランへお昼ご飯に行きました。昼食後、研修言語オリエンテーションがあり、それぞれの担当者の方々からのお話を伺いました。その後、連絡事項等がなされた後、早めに解散となりました。

3. 評価に占めるウエイト※受験者の実感による

- ・業務説明会 : 5%
- ・人事課面接 : 70%
- ・原課面接 : 10%
- ・集団討論 : 10%
- ・待合室 : 5%

4. 省庁に関する感想、内々事情及び留意事項等

外務省の官庁訪問では、全体的に「その人の人となりを総合評価する」というスタンスが感じられました。自分自身の見せ方次第で強みや弱みがどのように伝わるかが変わってきます。自分自身の弱みも、説明の仕方次第で、意外と好意的に受け止められる可能性があり、就活生の立場としては、ESに文字化されたスペックだけでは勝敗が分かれず、ある意味工夫のやり甲斐がある、という感想です。

5. 総論

(1) その省の攻略法、ワンポイントアドバイス

①柔軟性、協調性を体現できるよう心掛けると同時に、②分かりやすく伝えることを意識しました。①に関しては、ただ想定問答で考えてきたことや言いたいことを言うのではなくて、面接官がどのような意図で質問しどのような回答を想定しているか、質問の趣旨を捉えて的確に当てて回答できるよう心掛けました。②に関しては、どのような具体例をピックアップするか、どのようなロジックで伝えるか、自己分析や政策調べを丁寧に行い全体像を把握することで、対策しました。

(2) その省が求めていると感じた人材像、大事にしている価値観など

国際社会の様々な国々や分野に対応するために、色々な人物像を求めている印象です。そのうえで、根底にあるのは、あらゆる分野への関心を示しつつも、自分自身の志望動機や初心という軸は揺らがない、という両面のバランスを自分の中でいかに保ち体現するか、その上で、自分自身の人となりをいかに分かりやすく伝えるかといったことだと思います。これらの視点から考えると、外務省のニーズと自分自身との共通項を捉えた丁度良い人材像なるものが浮かび上がってくるように感じました。

(3) 政策の勉強法、おすすめの本

外交青書の目次項目を、15項目程度（朝鮮半島、中国、FOIP etc.）に簡略化し、それぞれの項目につき、①当該分野に係る現代外交政策の強みと弱み、②今後の展望について考えました。その際、短期的視点と長期的視点に分けて考えるとやりやすかったです。よく参照した文献は、五百旗頭真『戦後日本外交史』有斐閣（2014）、小原雅博『日本の国益』講談社現代新書（2018）、岡崎久彦『戦略的思

考とは何か（改版）』中公新書（2019）、佐藤史郎『外交の論点』法律文化社（2018）、都市出版『外交』（雑誌）、日経新聞などで、そのほかシンクタンクや省庁の資料、新書等幅広く読みました。

(4) 集団討論、プレゼンテーションが実施された場合、テーマとコツ

①グループにおける自分の適切な役割を把握し議論にしっかりと参加すること、②グループ全体で議論の的を外さないよう議論の立て直しをいつでも担当出来るイメージで取り組むこと、③協調性を体現することを意識しました。メモの取り方等を工夫するとやりやすいと思います。

★入口面接

主に興味分野を聞くのが目的。原課面接で誰に会わせるかを決定するための参考にされる。待合室の一角にあるブースで、話を聞いてみたい分野や志望度などについて話す。今年度は、第1クールは全員オンラインでの実施だったため、初めに動作環境を確認した。入口面接を担当する人事担当者は5人いて、どの人に当たるかは評価と全く関係無かった。5～10分程度。併願先との志望度合いや他省での評価、また「今日が大切な一日になる」、「今日はいつも通りやってくれば問題ない」等、クールを重ねるにつれて評価により違う言葉をかけられる。

★ブース面接

なし

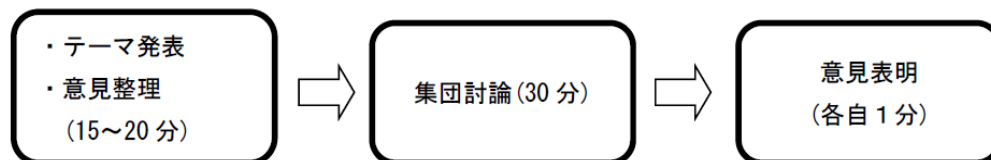
★原課面接

基本的に入口面接で答えた関心分野に合わせて、その分野の職員から一対一で業務説明を受ける。主に職員が話す場合と、訪問者からの質問を求められる場合とがある。どの人に当たるかは評価と全く関係が無かった模様。時間の目安は60分程度。話の盛り上がり具合や職員の方の忙しさにより40分～100分程度と幅があるが、時間の長短と評価は全く関係ない。OB訪問に限りなく近い。

★人事担当者面接

一番重要なプロセス。面接官は1人で20～30分程度。面接室までの地図を手渡され、自分一人で向かい、面接開始まで部屋の外に置かれている椅子に座って待つ。帰国子女だったり留学経験があったりすると英語で質問されることもある。内容は第1クールと第2クールでやや異なるが、民間就活でも聞かれるような基本的・典型的な質問（学生時代ががんばったこと、自己PR、志望動機）と、政策に関する質問が主。一昨年度に関しては、第1クールでやや圧迫ぎみの面接官が多かった模様。

★集団討論



第3クールにある。与えられたテーマについて2つの立場に分かれる。8～9人1グループで、4～5人ごとに一つの立場を担当する。事前に控室で立場の割振りがなされ、自分の主張を整理する時間が15～20分ほど与えられた後に、本番の部屋に移動する。最初に一人ずつ意見表明をする時間ではなく、いきなりオープンディスカッションとなった。議論できる時間は30分しかなく、最後の意見表明できる機会（1分程度。ちなみにこの時は当初の自分の主張を変えてもよい。）を含めてもそれほど多く発言する機会があるわけではない。

★出口面接

評価をはっきり言われる。安心できる度合いとリスクが分かるように評価を言われるので、自分の立ち位置が把握しやすい。所要時間は5～10分。周りの友人等と情報交換等を積極的に行い自分の立ち位置を常に把握しておくことが重要である。